

令和 7 年度

生駒市教育委員会主催
夏期研修会のまとめ

令和 7 年 9 月

令和7年度生駒市教委等主催夏期研修一覧

研 修 会 名	内 容	対象者	期 日	人数
生駒市 教育研修会	一人ひとりの「学び」から考える「教育」のこれから	小中教職員	8月1日 (金)	216
特別支援教育 コーディネーター 研修会	奈良県立盲学校学校見学	幼小中 特別支援 コーディネーター	8月7日 (木)	57
生駒市英語 小中連携会議	言語活動から考える指導と評価	小中教職員	7月30日 (水)	21

令和 7 年度

生駒市教育委員会主催
夏期研修会

各研修会参加者アンケート

生駒市教育委員会主催研修会

生駒市教育研修会 実績報告書

【日 時】令和7年 8 月 1 日(金) 13:45～16:45

【場 所】生駒市南コミュニティセンター

【講 師】芦屋市立小学校教員 藤原 健太郎 氏

芦屋市教育委員会事務局 甘利 大紀 氏

鹿児島市立中学校長 奥山 茂樹 氏

鹿児島市立中学校教員 田代 憲一郎 氏

HILLOCK 初等部中等部スクールディレクター 蓑手 章吾 氏

生駒市立小学校教員 小森 まり子 氏 久志 大樹 氏 山口 聡一朗 氏 西山 英樹 氏

【参加者】216名（後日市内全教員オンデマンド視聴可）

【テーマ】一人ひとりの「学び」から考える「教育」のこれから

【ねらい】・令和6年6月に策定した「第3次生駒市教育大綱」に示した教育理念と教育方針に沿った教育を先進的に取り組んでいる学校及び自治体等の取組から学び、今後の教育活動を推進するために理解と見識を深めること及び教職員の主体的・対話的な参加による学びの充実を本研修会の目的とした。

【アンケートより】

1. 本日の研修満足度について（10が高く、1が低い）

	10	9	8	7	6	5	4～1
%	30.5	15.3	32.2	11.9	5.1	5.1	0

◆ 感想や意見

- ・アンケートの結果が次年度になっても継続されているところが驚いた。それだけ児童に伝わっていたと言うことだと思うので、本当にすごいと思いました。
- ・自由進度学習についてとても知ることができました。とても面白い授業内容だと思いました。
- ・委ねる。やはり難しく深いと思います。頑張ろうと思います。
- ・学びとは？一斉授業とは？自由進度とは？と多くのことを考えさせていただけるきっかけになりました。
- ・実践を踏まえたお話ありがとうございました。
- ・芦屋市のご発表が大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・貴重な実践報告をありがとうございました。自由進度学習のメリットや不安な部分について知ることができました。
- ・生駒市の教育大綱の理念と現場とのつながりを意識することができました。
- ・発表者の方が親身になって答えてくださり、ありがたかったです。考えさせられました。

- ・実践を聞かせていただいたり、参加者同士で対話をしたりすることで、学びが深まったように思います。聞いた時にわからなかったことも、対話を通して新しく気づくことがあり、よかったです。
- ・母校の実践的研究を拝見し、その真摯なお取組に感謝しております。引き続き、脱皮を繰り返されますことを願っております。
- ・自由進度学習について、学びを深められました。学級に在籍している困り感のある子ども達をどのようにすればキラキラ活躍させてあげることができるかいろんな発達課題と照らし合わせて考えさせてもらえました。本日はありがとうございました。
- ・色んな方とお話しをして情報交換をすることが貴重な時間になりました。
- ・まずは先生方が真摯に学び、取組を進めていこうとする姿勢に刺激を受けると同時に、とても嬉しく思いました！自分自身2学期から、これやってみたい！というパワーをもらい、学びの夏休みを過ごしたいと思います。ありがとうございました。
- ・自由進度学習という学習に対し、ハードルが高いように感じていたが、今日のお話を聞いて2学期のかけ算のところで取り入れてみたいと思います。また、2回のグルーブトークでは、話してみたいテーマで分かれて話すことで、より知りたいことがわかりました。
- ・自由進度学習について、具体的な例を交えて知ることができた。自分が今まで行ってきた、受けてきた教育とは違うことを行うということに大きな不安もあるが、できる範囲で取り入れていこうと思った。
- ・目の前の子どもの実態に即した実践を行うために、自分自身の意識改革をしていかなければならないことを感じました。
- ・対話の時間が随所に確保されていて、学びの場を双方向型にしようという意図が感じられてよかった。参加した職員の「やってみたい！」を応援できる仕組みが作れたら、各校の取組も一段と加速すると思う。
- ・子どもたちが主体的に学ぶ楽しさを実感するためには、教え手側の主体性の向上、学びの質を高めることが不可欠だと改めて思いました。このような場をご準備いただきありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。先進校の実践に学ぶところが非常に多かったように思います。ただ、私が参加した分科会では方法論の良し悪しを論ずる展開になってしまったように思いました。生駒市の教育が目指すところは、対話的で個別最適な学びをつくるということかなと、感じています。一斉授業がだめで自由進度がよいということでは決してないと理解しています。子どもたちが学ぶ上で必要な形は何か？それをその時々の子どもたちのニーズに合わせて教師が使い分ける、提示することの必要性をより強く感じました。そのためには、自由進度的な学習の形も、一斉授業も、またそのほかの形もつくることのできる指導力がベースになるように感じます。さらに、どんな形式であれ学級経営が基盤になるようにも感じました。その辺りを意識して、2学期に向けて準備をして行きたいと思います。
- ・自由進度の学習の話聞いてとても良かったです。午後の、マグネットトークは、はじめは「嫌やなー」と思っていたのですが、実際にトークをすると凄く楽しかったです。職員間でこういった事をする、よりチームワークが深まるのかな？と感じました。
- ・これまでで一番面白い研修だったと思います。それは、対話のパートがあったことが大きな要因の一つです。市外の人とつながることができて、嬉しかったです。
- ・発表は、大変参考になりました。まとめの意見交換は、色々な先生方と意見交換ができ、良かったです。

- ・貴重な学びと交流の場となるため、各校参加者が増えるとうれしく感じます。
- ・午後の分科会が、ルールメイキングとあったので、そこを中心に伺いたかった。でも、講師先生の話はとても興味深く有意義な分科会であった。
- ・子どもの現状に即した教育方法を実践することは、前例にならうことが少ないので、常にチャレンジ精神を持つことと検証を行い修正していく柔軟性の両輪で推進していくことを改めて実感させていただきました。
- ・主体的、対話的、深い学びを実現するために、具体的に授業でどうしたらいいかを学ぶことができました。また、そこででてくる問題点など具体的に知ることができました。
- ・午後の部もアーカイブがあるとありがたいです。
- ・実際に、現場において自由進度学習を行うとなれば、学校全体で取り組み、また、保護者の理解も必要だと感じました。また、自由進度学習を行うためのガイダンスなども有志で研修などあればぜひ参加したいです！
- ・対話の場面が多く、たくさんの先生方のお考えを聞くことができ、たくさんの、刺激をいただきました。ぜひ、このような形の研修会をたくさんもっていただけたらと思いました。
- ・今回の研修は今まで参加した中で一番学びに繋がった研修になりました。計画準備、大変にお疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・マグネットテーブルの方式、めちゃくちゃ楽しかったです。でも、途中で変わることはできませんでした。
- ・参加することで、さまざまなことをライブで受け取れるとてもためになる良い研修形態だったと思います。ありがとうございました。
- ・昼からの研修で長時間話す時間があつたのは、大変疲れました。

2. 「令和7年度 生駒市教育研修会」アンケート結果の検証

- ・今回の研修会の参加者のうち、89.9%が研修会全体について10～7点と回答している。昨年度のテーマ「生駒市が目指す新しい学びのカタチとは！？」に引き続き、「第3次生駒市教育大綱」に示した教育理念と教育方針に沿った教育の先進地事例について学ぶ機会となったことに加え、教職員による対話の時間など意見交流を行う場を設定したが、教職員のニーズに合った研修となったと考えられる。
- ・文部科学省の答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」にある授業改善について分科会方式にて現役の本市教職員、芦屋市教職員、鹿児島市教職員及びオルタナティブスクールの取組を紹介し、その後、教職員の対話の時間や意見交流をする時間を設定した。教職員がそれぞれ授業改善を進める上で感じていることや悩んでいることを共有することができた。今回の研修は、各分科会ごとの対話の時間や、最後に全体会での対話の時間を設定したことにより、昨年度以上に、これまでの自身の授業の在り方を考えたり、主体的な学びの在り方について考えたりする機会とすることができたと考えられる。
- ・教員のアンケートから、実践を進める上で教員間の情報交換の必要性が述べられている。本市としては今年度の取組として伴走・越境型研修として教員のコミュニティを形成し意見交換できる場を設定している。研修後にコミュニティへの追加参加の希望者もあった。今後はこちらの取組の紹介も含め、より多くの教職員に寄り添った研修の在り方を検討していく必要がある。

- ・市教委では、今後も授業改善や働き方改革等の現場のニーズに合った研修を行い、「第3次教育大綱」に示した基本理念、基本方針に沿った教育を進めていく。

生駒市教育委員会主催研修会

特別支援教育コーディネーター研修会 実績報告書

【日 時】令和 7 年 8 月 7 日(木) 9:30～11:30

【場 所】奈良県立盲学校

【参加者】57 名(幼稚園・こども園・保育園 9 名、小学校 12 名、中学校 6 名、市外 30 名)

【テーマ】奈良県立盲学校施設見学・歩行体験・講義「視機能の発達と視覚障害教育」

【ねらい】視覚障害の特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する総合的な支援体制の整備・充実を図る。

【アンケートより】(アンケートに関しては市外の参加者の回答を含む)

1. 本日の研修内容について

	1 とても良い	2 良い	3 普通	4あまり良くない	5 良くない
%	54.5	42.4	3.1	0.0	0.0

① 盲学校についての理解・学び

- ・盲学校の教育内容や指導の工夫を初めて知った。
- ・通常の学校と同じ建物でも、視覚障害のある子どもたちのための工夫がされていることに感銘を受けた。
- ・普段訪れる機会がないため、施設や生活の様子を知ることができて貴重だった。
- ・弱視や視覚に関する困りごとへの理解が深まった。

② 実体験(白杖体験・歩行体験)による気づき

- ・白杖体験や歩行体験が印象的で、視覚障害のある方の不安や困難を実感できた。
- ・視覚以外の感覚で情報を得る難しさを体験した。
- ・サポートの仕方(「あと〇m」など具体的な声かけ)の重要性を学んだ。

③ 講義・研修内容に対する評価

- ・講義や資料が分かりやすく、準備が整っていた。
- ・実物掲示や体験を交えた研修が効果的だった。
- ・目に関する基礎知識や見え方の個人差について学べた。
- ・施設見学や講座の内容に物足りなさを感じた。特に環境面(暑さ・空調)が研修環境としてよくなかった。

④ 今後への活用・意識の変化

- ・学んだことを勤務校の子どもたちにも伝えたい。
- ・子どもの視力に関する気づきや配慮のきっかけになった。
- ・「見る」経験の大切さを再認識した。
- ・今後の支援や接し方に活かせると感じた。

2. 本日の研修の内容は、授業づくり、子どもたちへの指導等に役立ちますか

	1とても役立つ	2役に立つ	3あまり役立たない	4役に立たない	5わからない
%	39.4	54.5	3.0	0.0	3.0

① 今後の支援・指導への活用

- ・今は視覚障害のある子どもはいないが、将来出会ったときに役立つと感じた。
- ・自校の児童（文字がぶれて見える、色覚異常の可能性）への支援のヒントになった。
- ・二学期以降の支援・指導に活かしたい。
- ・授業や環境整備に役立てたい。
- ・拡大読書機や見え方の工夫など、具体的な支援方法を知ることができた。
- ・見え方の違和感に気づいたとき、相談できる場所を知ることができた。
- ・見え方のアセスメントや教材の工夫に活かしたい。
- ・支援の道具や声かけの工夫で、子どもたちの生活の質を高めたい。
- ・保護者への働きかけ方も学べた。

② 視覚に関する理解の深化

- ・車椅子視点の見え方に気づかされた。
- ・視力が原因かどうかの見極めに必要な知識や道具を知った。
- ・色の識別や認知など、発達だけでなく視力の観点から子どもを見るきっかけになった。
- ・見え方の困り感や個人差について理解が深まった。
- ・見え方・サポートのされ方は人によって違うことを学んだ。

③ 支援体制・相談先の認識

- ・「相談してくださいね」という言葉が心強かった。
- ・視覚支援が必要な子どもに出会ったとき、どこに助けを求めればよいかが分かった。
- ・見え方に違和感を感じたときに相談できる場所を知った。

④ 実践への意欲・課題意識

- ・学校の先生方にも共有したい。
- ・一人ひとりに合った支援をすることの大切さを再認識。
- ・特性に応じた支援の手がかりを得た。
- ・実際にできることから行動に移すことが大事だと感じた。
- ・子どもたちの困り感に真に寄り添う支援のあり方を考えるきっかけになった。

⑤ 研修への評価・改善点

- ・子どもたちの指導や支援に結びつく内容が少なく、座学のように感じた。

3. その他、本日の研修全般についての感想やご意見についてご記入ください

① 視覚障害への理解と気づき

- ・視覚障害の方の見え方や歩行時の感覚を少し知ることができた。
- ・見え方には個人差があり、盲学校にも様々な工夫があることを知った。

- ・視覚障害の方が社会で過ごすための支援方法を学べた。
 - ・視覚障害者への手引きの仕方など、社会的な配慮の重要性を実感。
 - ・視覚障害者支援の有形無形の工夫に気づき、自分の「盲点」にも気づかされた。
- ② 実体験による学び
- ・白杖を使った歩行体験が印象的で、支援の難しさを実感。
 - ・実物の検査機器や補助具（白杖、拡張器具など）を見られて理解が深まった。
 - ・校内見学や体育館などの施設の工夫を知ることができた。
- ③ 教育現場への活用意識
- ・教育現場の人間として、子どもたちに伝えていくべき内容だと感じた。
 - ・地域の学校では視覚障害児と関わる機会が少ないため、今回のような研修は貴重。
 - ・今後、外で視覚障害者を見かけたら声をかけて手助けしたい。
 - ・同じ奈良県の教育者として、盲学校の取組を知ることが重要だと感じた。
- ④ 研修への評価・要望
- ・貴重な体験ができた。
 - ・研修時間をもう少し長くしてほしかった。
 - ・実践事例や視覚補助用具の紹介にもっと時間を割いてほしかった。
 - ・会議室の空調が不十分で、暑かった。
- ⑤ 今後への期待・継続希望
- ・次年度も開催してほしい。
 - ・今後も様々な研修を企画してほしい。

生駒市教育委員会主催研修会

生駒市英語教育小中連携会議 実績報告書

【日 時】令和7年7月30日(水) 9:30～12:00

【場 所】真弓小学校 多目的室

【参加者】21名(小学校13名 中学校8名)

【テーマ】言語活動から考える指導と評価

【ねらい】令和2年度から小学校で新学習指導要領が全面実施となった。また、令和3年度から中学校で新学習指導要領が全面実施となり、小学校での教科としての英語学習がスタートした。子どもたちが中学校での学習をスムーズに進められるよう、小学校教員は中学校入学までに身に付けておくべき力について明確に意識しながら授業を計画する必要がある。また中学校教員は、小学校での取組内容についての確に把握し、小学校での学びを活かせる授業を計画しなければならない。当会議においては、小中それぞれの新学習指導要領の内容を確認すると同時に、中学校区ごとの現状を具体的に報告しあい、持続可能な小中連携を目指して英語教育小中連携計画をたてる。

【アンケートより】

1. 本日の研修内容について

	1 とても良い	2 良い	3 普通	4 あまり良くない	5 良くない
%	57.0	36.0	7.0	0.0	0.0

- ・普段、なかなか意見交換のできない小学校の先生方との交流はとっても有意義な時間だと思えるからです。
- ・小学校の先生方と情報交換、交流できたことがとても有意義でした。
- ・後半のほかの学校との交流で、それぞれ学校の取り組みや、課題などが知れたから。
- ・今年の外国語科の授業を行っていて、評価の観点について悩んでいました。今日の研修を受けて、「これは今の自分もおこなっているものだから、そのままやっていこう」や「これは評価の対象ではなかったのか、2学期から改善すべきところだな」と知ることができたからです。
- ・小学校英語授業の様子や活動がよくわかり、勉強になりました。
- ・小学校6か年での積み上げの話もしてくださり、外国語もやはり系統立てて指導していくことがとても必要だと感じたからです。また、指導と評価の話もあり、具体的な評価の指標を示してくださったおかげで分かりやすかったです。
- ・まずは目先の中学校の教育に繋げていくことができるように、小学校でも粘り強く取り組んでいることが改めて分かった。
- ・他の先生方の英語授業の仕方を聞いて、教科書以外にも、自作のワークシートで楽しい授業づくりをしていることを知れたからです。きめ細かい評価設定が大切であることも知りました。
- ・小中での学習内容や進み方などを共有し、他の学校での取り組みを交流することができたので。
- ・具体的な外国語の授業のことについて学ぶことができた。

2. 本日の研修の内容は、授業づくり、子どもたちへの指導等に役立ちますか

	1とても役立つ	2役に立つ	3あまり役立たない	4役に立たない	5わからない
%	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

- ・英語で考えや思いを伝えるノウハウがたくさん詰まっていると感じられたからです。
- ・紹介していただいた教材の発想などがとても勉強になりました。
- ・前半の講義は聞き取れなくてわかりませんでしたが、ほかの学校の取り組みは取り入れられそうと感じたから。
- ・校内に外国の方を招いたり、オンラインを利用して、違う国の人と関わることで、子供たちの外国語科に対する授業への意欲がこんなに高まるのかと驚かされました。近くの大学や ALT、ES と連携して、可能なら私も実践してみたいと感じたからです。（2学期に時期を考えてしてみたいと思います。）
- ・小学校での授業をふまえつつ、中学校1年生で上手に移行できるよう工夫していこうと思いました。
- ・実際に授業をする上での単元の適切なゴールとなる言語活動の設定について学ぶことができました。子ども達が目的意識を持って活動できるように、指導者がしっかりゴールを意識して活動に取り組まなければいけないと思いました。また、その中で、子ども達に必要な支援であったり、単元目標をわかりやすく子ども達に示したりすること、さらに振り返りでの見取りなど様々な準備が必要なことを学ぶことができました。担任をしながらだと難しい、と思ってしまっていたのですが、しっかりゴールを意識して子ども達を導くこと、そして校内の先生方にもその意識を広めていけるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- ・自分自身にない考え方や評価の仕方等を共有することができて、自分の知識や技量の幅が広がった。
- ・英語を教える機会があれば、目的や場所、状況を設定して英語を学習させていきたいです。子ども達が英語をコミュニケーションの道具として使えることができるように、英語を使って会話を続けてみることを意識するように指導したいです。
- ・ジェスチャーや写真は英語の評価としては使わないようにして、振り返りシートに書いていることを評価の材料にするという考えが面白いと思った。今までなら、なんとか積極性や主体性を見とるために生徒の良いところを探し、前者のような内容をもとに第三観点の評価を行ったこともあったので為になった。
- ・2学期以降に参考になることばかりだった。

3. 日頃の外国語活動、外国語の授業で困っておられることがあれば具体的にご記入ください。また、本日の会議に関しての感想やご意見などがありましたら、ご記入ください

- ・小学校との交流が深まるのが、生徒たちにダイレクトに還元できることなのでとてもありがたい会議です。
- ・こちらの間違いだったのにも関わらず、オンラインで入らせていただき、ありがとうございました。高学年の外国語科で、担任だけでは英語の専門性が低いため、ALT やわくわくイングリッシュティーチャーの存在はとてもありがたいです。しかし、日程調整や打ち合わせなど、別の部分で負担が大きくて困っています。英語専科がいると助かるなと思います。
- ・校種別の交流会については、先日市の中学校英語部会と重なるところもありましたので、小中連携にだけ特化して、もっと交流を深め、各中学校区ではこの1年どんな連携をとるつもりでいるのかも教えていただけたら参考になるかと思います。貴重な研修をありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・振り返りシートに書けるだけの力が足りていない生徒はどのように見ていけば良いかが気になりました。

○ 令和7年度生駒市教育委員会主催夏期研修会の総括

- ・ 生駒市教育研修会は、一人ひとりの「学び」から考える「教育」のこれからをテーマに、今年度は芦屋市との共催による教育フォーラムと同日に開催した。午前中は教育フォーラムとして芦屋市教育長を招き、本市教育長との教育長対談を行った。そこでは両市の教育理念や教育のこれからについて語られた。午後からは、それに沿った教育の実現に向けて分科会方式で、生駒市、芦屋市、鹿児島市及びオルタナティブスクールの事例を共有した。参加者が主体的に参加できるように対話の時間等を設けたことにより、アンケート結果からも教育現場のニーズに合った研修となり、好評であったことがうかがえる。
- ・ 特別支援教育コーディネーター研修会は、コーディネーター以外にも特別支援教育担当者も参加し、盲学校における視覚障害のある児童生徒に対する自立活動の取組と就学先である盲学校の様子を参加者が知ることができ有意義となった。
- ・ 生駒市英語小中連携会議では、「言語活動から考える指導と評価」について市内英語専科教員の実践報告を聞き、校種ごとにそれぞれの言語活動と評価の実践交流を行った。その後の中学校区ごとの教員交流を通して、現状と課題を共有し、子どもたちのスムーズな学びの接続のために持続可能な小中連携を考えてもらった。2学期以降にそれぞれの中学校区の計画を実現できるようサポートし、第2回会議には中学校区で取組の発表を行い、来年度からの連携に活かしていきたい。

○ 次年度に向けて

- ・ 教育研修会は今年度も教育フォーラムとの共催とした。昨年度の反省から、参加者がより主体的に参加できるように対話の時間を設けた。加えて昨年度は分科会を前半、後半と分けていたものを一本化したことにより分科会内で学びを深める時間の余裕を設けた。参加者のアンケートには本研修の在り方について肯定的な意見が多くあった。次年度の開催については、今年度よりも多くの教職員が参加したいと思えるように周知の段階で広報を丁寧に行う必要がある。
- ・ 今年度も研修のオンデマンド配信を実施した。分科会ごとの取組紹介を配信し、当日に参加が難しい教員への配慮を行った。会場参加者には、教員の情報交換の時間を多く設定し、当日参加でしか得られない価値を付加した。今後も会場参加とオンライン視聴それぞれのバランスを考慮し、開催方法を決定していく必要がある。
- ・ 夏期研修以外にも平日に行える研修は、本年度同様に平日に行う。